



2017(平成29)年9月号

## 秋季彼岸会

今年の東京の夏は、雨が多く記録的な涼しさでした。猛暑であれば、暑い暑いと文句を言いますが、ここまで涼しい夏だと逆に夏らしく暑くなつてほしいと勝手なことを思つてしまいます。また、お盆が過ぎれば彼岸の季節になります。しかし、今年の異常気象だと、定番の「暑さ寒さも彼岸まで」というフレーズが、あまり合わなく感じますね。

さてお彼岸とは、文字の如く「彼岸」、仏さまのさとりの世界であるお浄土を意味します。私たち人間界のことを此岸（しがん）と言い、此岸から彼岸へと渡る道、つまり浄土に生まれる道を教えてくださるものであります。それは、今私たちが素晴らしい人生を送ることと言い換えられるものです。

しかし、お彼岸と聞くと、やはりお墓参りをイメージされることでしよう。では、なぜお彼岸にはお墓参りをするのでしょうか。

そもそも、お彼岸だからお墓参りということではなく、心に思いが起これば、いつ行つてもいいのです。ご家族の命日や懐かしい方のことを思い出した時に限らず、自分の悩みや苦しい胸の内を打ち明けたくなった時、人生の転機を報告しようと思つた時にお墓参りに行くことが、むしろ自然なことだと言えるでしょう。

私の今の人生は、たくさんいのちのつながりの中にあることや、仏とつながれた方々が、いつも私を心配してくださり、勇気づけてくださることをお彼岸の時期に改めて感じさせていただくことができるのです。それは、年回法要などの時にも同じ意味合いでお勤めします。

お彼岸という仏事は、私たちが仏とつながれた方の願いに遇わせていただくためのものです。先立っていかれた方（故人）の願いは、仏さまの願いと同じです。仏さまの願いは、本願と言います。智慧の眼・慈悲の心とも言います。智慧や慈悲は、私の人生に安心と心強さを与えてくださるはたらきを意味します。

仏さまは、私たちが嬉しい時や悲しい時、一緒になつて喜び悲しんでくださる方です。先立った方が、仏となつて私を真実へと導いてくださる存在として手を合わせていくことは、とても尊いものです。

ところで、お彼岸のお供えといえは、やはりおはぎですね。以前、「おはぎ」と「ぼたもち」の違いについては触れましたので省略しますが、皆さまはおはぎのこしあんや粒あんでは、どちらがお好みでしょうか？私は、断然こしあん派です。粒あんが嫌いという訳ではありませんが、こしあんは、小豆の旨味が直接口の中に広がっていくのに対し、粒あんは食べた後、口の中にいつまでも小豆の皮が残っている感じがするからです。

今年の秋のお彼岸の中日は9月23日です。当会館におきましては、お中日に秋季彼岸会をお勤めいたします。お参りの皆さまには、もれなくお供物のおはぎ（平等にこしあん・粒あん一つずつ入っています）を差し上げます。是非、ご家族お揃いでお参りください。

# 仏事あれこれ

## 仏事のQ&A

Q. 御仏前に供える「御供」の向きは？

A. 御供の文字を私に向けて

供える

法事の案内をもらい、当日参拝し、仏前に「御供」あるいは「御仏前」の金封や、「御供養」の品物などを供える時、あなたはそれらをどちら向きに置かれますか？ 表書きの文字を仏さまに向けて置くか、自分たちの方に向けて置くか、という問いです。

私が法事のお勤めで門徒宅を訪れた経験では、五分五分といったところで、ひよつとすると仏さま向きの方が多いかも知れません。もっとも、最初に置いた方がこちら向きに置かれれば、次からもこちら向きに置かれますし、仏さまに向けて置かれたなら、次からも仏さまに向けているといった感じで、自信を持っておかれている方は少ないようです。

些細なことのようなのですが、この向きにも、法事に臨む姿勢が表れるのです。たとえば、神道の儀式で、祭神に供物を捧げる場合、神さまに向けて供えるのが作法です。榊を捧げる時は、神前で向きを180度変えて供えます。これは、こちらから神さまにお願い事をするからでしょう。願いを聞いてもらうために捧げるからです。



しかし、浄土真宗では、「仏花の意味」で述べた言葉「私が供えた花はそのまま私に注がれている仏さまのお心を表している」と同じことで、仏さまからの恵み、私に向けての大悲のほたらきを、それら「御供」「御供養」

のお供え物を通して味わいます。他所からいただいた食べ物などをまずお仏壇にお供えし、手を合わせてから食する習慣があります。その心もここからきています。つまり私から仏さまにお願いするのがお供えではないということなのです。したがって、文字が私たちの方に向くように供えましょう。

お仏壇のお飾りから始まって、法要・儀式のさまざまなかたち、行為を通して、私たちにかけられている仏さま（阿弥陀仏）のたいなるお心をいただいていくのが、浄土真宗の門徒の心なのです。

新・仏事のイロハ』より抜粋

平成29年の年回表  
(ご法要のお申し込みをお忘れなく)

平成29年 年回表	
1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
23回忌	平成7年
25回忌	平成5年
27回忌	平成3年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年



## ▶ 9月の行事予定

### 境内清掃

9月9日(土) 午前9時～

境内の草取りを中心に行います。  
ご協力よろしくお願ひいたします。  
※雨天時は中止となります。

### 親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

9月16日(土) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？  
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

### 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日(月)

今年で37回目となる追悼法要です。  
平和への思いを新たにいたしましょう。

### 秋季彼岸会

9月23日(土) 午後1時～

ご講師 毛利 祥真師

(神奈川県 立徳寺)

秋のお彼岸に亡き人を偲び、  
み法(みのり)の秋にしましょう。  
お参りの皆さまにおはぎを差し上げます。



## ▶ 10月の行事予定

### 常例法座

10月15日(日) 午後1時～

ご講師 村上 弘樹師

(山梨県 真光寺)

どうぞ、お気軽にお参りください。



東久留米会館会報 「ともしび」  
第257号  
発行日 2017年9月1日  
発行者 安邊 泰教  
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30  
電話番号 042-474-6787

**編集後記**  
我が家の夏休み中の恒例行事である家族旅行に、今年は伊豆へ行ってきました。しかし、当日は台風直撃で観光がほとんどできず、旅館に足止めとなりました。ただ、そのお陰？で、温泉は貸し切り状態になり、ゆつくりと過ごすことができました。たまには、こんな旅行もいいものだと感じた今年の夏の思い出です。(安)



北川 康雄様 高田 慶彦様  
今月のお仏飯米のご進納  
ありがとうございました。